

第3・4学年複式 国語科学習指導案

平成30年9月28日(金) 6校時

授業者 附属新潟小学校 教諭 桑原 浩二

会場 中学年3組教室

1 単元名

紹介文で伝えよう ～シング・ア・万葉ソング♪～

2 本単元の価値

本単元は、「題材の設定、情報の収集、内容の検討」「構成の検討」「考えの形成、記述」「推敲」「共有」といった一連の「書くこと」の学習過程（以下：文章化過程）を重視したうえで、学習指導要領第3学年及び第4学年の指導事項ウ・エ，言語活動例アを受けて設定した。

- (1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。
 - エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えること。
- (2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。
- ア 調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。

本単元の目的は、学級歌（以下：万葉ソング）に対する自分の考え（思い）と歌詞や旋律の説明といった事例とを整理し、万葉ソングを紹介する文章を書き表すことである。そして、出来上がった紹介文を万葉ソングとともに、当校の文化祭である附属アートミュージアムで、作品として展示する。これが、本単元のゴールである。在校生のほかに、保護者、地域の方、教員など大勢の人が来校する附属アートミュージアムは、万葉ソングを伝える絶好の機会である。

本単元には、大きく次の二点の価値がある。一点目は、子どもが自分の考え（思い）を書いて伝えたい題材だという点である。子どもは、4月の学級行事「3年生を迎える会」において、3年生を歓迎する簡単な学級の歌を作り、口ずさんでいた。そして、「本格的な万葉ソングを作りたい」といった声上がり、学級全員で万葉ソングを制作することにした。万葉ソングには、子どもの気持ちが詰まっている。だからこそ、自分たちにとって大切な万葉ソングを大勢の人に伝えたいと意欲的になれる。学級全員の考えや思いに関する題材だからこそ、書き表す価値がある。

二点目は、読み手の状況に合わせて、書き表し方を工夫できる点である。子どもは、これまでに、友達や家族といった、ある程度顔の見える相手を読み手として文章を書き表してきた。しかし、本単元で書き表す紹介文の読み手は、先述のとおり、附属アートミュージアムに来校する大勢の人である。つまり、顔の見えない読み手といえる。そのような顔の見えない読み手の状況を考え、収集した情報を取捨選択し、どのように構成すれば伝わるのかという書き表し方の工夫を学習できることに大きな価値がある。

3 本単元で目指す姿

文章化過程の往還を通して、万葉ソングを紹介する文章を明確に書き表す子ども

具体的には、必要な情報を再取材で補い、補った情報を取り入れて再構成するなど、文章化過程を行きつ戻りつすることを通して、「言葉による見方・考え方」を働かせ、自分の考えとそれを支える理由や事例とを整理して書き表す力（②思考力・判断力・表現力）等の資質・能力を発揮し、万葉ソングに対する自分の考え（思い）と歌詞や旋律の説明などと区別して、紹介文を書き表す子ども。

4 本単元で育成する資質・能力、そのために子どもが働かせる「見方・考え方」

単元カード参照

5 指導計画 全8時間

単元カード参照

6 指導の構想

子どもは、前単元「調べて伝えよう」において、文章を構成する力（②思考力・判断力・表現力）、思いや考えを伝え合おうとする態度（③態度）等を発揮し、報告文を書き表している。

まず、単元の導入として、「附属アートミュージアムで万葉ソングを紹介する文章を書いて伝えよう」と投げ掛ける。併せて、附属アートミュージアムに来校する大勢の人が読み手であることを確認する。子どもは、書く目的と読み手とを理解する。次に、書く材料を収集させるために、一週間の取材期間を設定する。万葉ソングに対する自分の考え（思い）などを付箋紙に書き溜めるように指示をする。子どもは、紹介文に必要な様々な書く材料を収集する。そして、取材期間の後に、収集した書く材料をどのように活用するかを問う。すると、子どもは、タブレット端末のアプリ（以下、Post-it Plus）を用いて、紹介文の構成を考える。その後、タブレット端末のアプリ（以下、Word）を用いて、紹介文を記述する。しかし、この段階における紹介文には、万葉ソングに対する自分の考え（思い）とそれを支える理由や事例とが整理されておらず、内容も乏しい（C0）。このような子どもに、次の働き掛けを行う。

働き掛け1

紹介文を読み合う場を設定し、自他の紹介文の感動するところを問う。

紹介文の表現に着目した問いをもたせるための働き掛けである。

まず、紹介文を読み合う場を設定する。これは、紹介文を比較させ、共通点や相違点をつかませるためである。子どもは、タブレット端末上で共有されている学級全員の紹介文を比べながら読む。すると、友達の紹介文に憧れを抱いたり、自分の紹介文の不十分さを感じたりする。

次に、自他の紹介文において、感動するところを問う。これは、「言葉による見方・考え方」を引き出すためである。子どもは、自分と友達との紹介文の中で、読み手が感動するところはどこかと探す。しかし、そのような箇所がほとんどないことに気付く。つまり、読み手・目的と紹介文とが関係付き始める。そして、子どもは、「言葉による見方・考え方」を働かせ始め、「私の紹介文には、読み手が感動するところがなさそうです。だから、附属アートミュージアムに来てくれる人が私の紹介文を読んでも、万葉ソングの魅力が分からず、感動までにはならない」などと、自分の紹介文に疑問を感じ、自信がもてなくなる。そして、「どのような紹介文を書けば、万葉ソングの魅力が伝わるか」などと、紹介文の表現に着目した問いをもつ。

働き掛け2

読み手の知りたいことが分かる調査資料を提示し、紹介文のどこを直せばよいかを問う。

課題解決の見通しをもたせるための働き掛けである。

問いをもった子どもに、読み手の知りたいことが分かる調査資料を提示する。調査資料とは、全校の人・保護者・教員を対象に、万葉ソングのどのようなことを知りたいかをまとめたものである。子どもは、この調査資料から、どのようなことを書き表せばよいか気付き始める。

このような子どもに、紹介文のどこを直せばよいかを問う。これは、「言葉による見方・考え方」を明確化するためである。子どもは、「万葉ソングの歌詞や旋律に込めた思いを詳しく書き足せば、万葉ソングの魅力が伝わる」などと、「言葉による見方・考え方」を明確にする。そして、再取材や再構成をして、紹介文をよりよく書き表そうとする態度（③態度）を発揮して、「そのために、情報を補ったり、構成し直したりして紹介文を書き直していこう」などと、課題解決の見通しをもつ。読み手に万葉ソングの魅力を伝えるためには、どのようなことを書き表せばよいかと、相手・目的と紹介文とが関係付くため、「言葉による見方・考え方」が明確になる。

働き掛け3

再取材を行う場を設定し、第二稿で取り上げる段落の順序を問う。

必要な情報を収集・整理させ、第二稿を記述させるための働き掛けである。

課題解決の見通しをもった子どもに、再取材を行う場を設定する。自分の紹介文に必要な情報を収集させるためである。再取材の方法は、インタビュー、アンケートなどとする。子どもは、自分の紹介文に必要な情報を付箋紙に書き出したり、ノートにまとめたりする。

再取材を行った子どもに、第二稿で取り上げる段落の順序を問う。収集した情報を整理させ、第二稿の構成の手掛かりをつかませるためである。子どもは、考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係に関する知識・技能（①知識・技能）を発揮して、「『万葉ソングが誕生するきっかけ』『担当した歌詞の説明』『万葉ソングに込めたぼくの思い』の順番にします」などと、第二稿の構成を考え出す。その後、自分の考えとそれを支える理由や事例とを整理して書き表す力（②思考力・判断力・表現力）を発揮して、第二稿をWordで記述する。

働き掛け4

紹介文を検討する場を二段階で設定し、最終的にどのような紹介文にするかを問う。

最終的な紹介文を記述させるための働き掛けである。

第二稿の紹介文を記述できた子どもに、紹介文を二段階で検討する場を設定する。第二稿をさらに吟味させるためである。二段階とは、同学年で検討が一段階目、異学年での検討が二段階目である。複式学級では、下学年が上学年から教えてもらうことが多い。そのため、3年生は受け身の姿勢となり、4年生は助言することが上達しない。そこで、同学年で検討を最初に取り入れる。これにより、3年生も4年生も自分の意見を持ち、二段階目の検討に臨める。子どもは、第二稿の表現や構成をペアの友達に説明する。それを聞いた友達は、読み手に万葉ソングの魅力が伝わるかという視点で助言をする。検討の場を二段階で設定することで、検討の質を高める。

第二稿を検討した子どもに、最終的にどのような紹介文に仕上げるかを問う。最終的な判断を促すためである。子どもは、二段階での検討における助言を基に、紹介文を整える力（②思考力・判断力・表現力）を発揮し、第二稿に赤を入れ、最終的な紹介文を書き表す。このようにして、文章化過程の往還を通して、万葉ソングを紹介する文章を明確に書き表す子ども（C_n）となる。

働き掛け5

観点を提示して、学習を振り返る場を設定する。

発揮した様々な資質・能力の自覚を促すための働き掛けである。

最終的な紹介文を書き表した子どもに、これまでの学習で、「できるようになったことや分かっこと」という二つの観点を提示して、学習を振り返る場を設定する。子どもは、学習過程を振り返り、「万葉ソングに対する自分の考え（思い）と歌詞や旋律の説明などの事例とを区別して記述することができた」（②思考力・判断力・表現力）などと、発揮した様々な資質・能力を自覚する。その後、紹介文の体裁のみを修正させ、附属アートミュージアムで紹介文を展示する。

7 本時の構想

(1) 本時のねらい (本時 4 / 8 時間目)

調査資料から読み手の知りたいことをとらえることを通して、再取材や再構成をして、紹介文をよりよく書き表そうとする態度 (③態度) を発揮し、「万葉ソングの歌詞や旋律に込めた思いを詳しく書き足せば、万葉ソングの魅力が伝わると思う。そのために、情報を補ったり、構成し直したりして紹介文を書き直していく」などと、課題解決の見通しをもつことができる。

(2) 展 開

学習活動と子どもの姿 ☆資質・能力	教師の働き掛け
<p>1 前時までの学習内容を思い出す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【学習課題】 万葉ソングの魅力を伝える紹介文にするためには、どのようなことを書けばよいか。</p> </div>	<p>学習課題及び学習のゴールを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○指示「みんなで万葉ソングを歌いましょう」 ○確認「皆さん、この前の学習で、初稿を読み合い、学習課題を立てることができましたね」 ○確認「今日の学習のゴールは何ですか」
<p>2 読み手の知りたいことを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校のみんなは、万葉ソングに込めた中三の思いを知りたいんだね。私の紹介文には、入っているよ。 ・一番注目してもらいたいところは、書いていなかったな。付け足そうかな。 ・万葉ソングが完成したときって、どんな気持ちだったかな。ノートを見て、そのときの気持ちを振り返ってみよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・おうちの人、ぼくたちの思いを知りたいんだね。でも、中三みんなの思いと一人一人の思いとは、同じなのかな。 ・私と陸斗さんのペアが担当したパートの歌詞や旋律の紹介について、何も書いていなかったな。 ・万葉ソングを作ってみての感想を書いたけれど、改めて感じた中三のよさについては、考えもしていなかったな。 <ul style="list-style-type: none"> ・全校の人、おうちの人、先生方に共通するのは、万葉ソングへの思いが知りたいということだな。思いって大切なんだな。 ・学級の歌を作ることはあまりないことだから、先生方は、きっかけとなった出来事が知りたいんだね。 ・これから先のことについては、何も書いていなかったな。万葉ソングを全校の前でも発表していきたいな。 	<p>読み手の知りたいことが分かる調査資料を提示する。 【働き掛け2-①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○指示「まず、皆さんに全校の人が万葉ソングについてどのようなことを知りたいのかをまとめた資料を見せます」 ※読み手を確認する。 ※資料を黒板に掲示する。 ※子どものつぶやきを拾い、発表させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【全校の人が知りたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・万葉ソングには、中三のどんな思いがあるのか。 ・万葉ソングで一番注目してもらいたいところはどこか。 ・万葉ソングを作っているときや完成したとき、どんな気持ちだったか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○指示「次に、おうちの人が万葉ソングについて、どのようなことを知りたいのかをまとめた資料を見せます」 ※資料を黒板に掲示する。 ※子どものつぶやきを拾い、発表させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【おうちの人が知りたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・万葉ソングには、一人一人のどんな思いがあるのか。 ・自分が担当したパートの紹介。なぜ、そのような歌詞や旋律にしたのか。 ・万葉ソングを作ることを通して、改めて感じた中三のよさとは何か。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○指示「最後に、先生方が万葉ソングについて、どのようなことを知りたいのかをまとめた資料を見せます」 ※資料を黒板に掲示後、子どもに配付する。 ※子どものつぶやきを拾い、発表させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【先生方が知りたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・万葉ソングへ込めた思いとは何か。 ・万葉ソングを作るきっかけとなった出来事は何か。 ・万葉ソングをこれからどのようなときに歌っていききたいか。 </div>

3 学習課題に対する見通しをもつ。

- ・私は、紹介文に万葉ソングの紹介として、「歌詞や旋律の説明」を書きました。しかし、これだけでは、読み手を感動させる紹介文にはならないことが分かりました。なぜなら、資料から、全校の人は、万葉ソングにはどんな思いがあるのかを具体的に知りたいということが分かったからです。だから、万葉ソングの歌詞や旋律に込めた思いを詳しく書き足せば、万葉ソングの魅力が伝わると思います。そのために、情報を補ったり、構成し直したりして紹介文を書き直していきます。
- ・資料を見ると、どの人も万葉ソングへの思いが知りたいということが分かりました。ぼくの紹介文の中にも思いが書いてあるのですが、少ししかないので、まだまだ弱いと思います。だから、ぼくの思いや中三の思いも書き加えれば、附属アートミュージアムに来てくれる人が、万葉ソングって素敵だなと感じると思います。そのために、もう一度、書く材料を集めて、紹介文を書き直します。
- ・私の紹介文には、担当したパートの歌詞と旋律の説明がありませんでした。万葉ソングを紹介する一番大切なことが抜けていたことに気付きました。だから、「始め・中・終わり」の中で取り上げることを変えます。ペアの愛美さんと相談して、担当した歌詞の意味と旋律で工夫したところとを書き足します。そして、構成を練り直して、紹介文をよりよく書き表していきます。
- ・ぼくは、終わりを直します。終わりに歌詞を載せることをやめて、万葉ソングができたときの気持ちを書きます。そうすれば、ぼくの紹介文を読んでくれる人に、万葉ソングができたときの様子を伝えられると思うからです。これから書くことを取材し直したり、構成を考え直したりして、紹介文をよりよくしていきたいです。★国語科③

4 学習のまとめと振り返りをする。

【学習のまとめ】

万葉ソングへの思い、注目ポイント、歌詞や旋律の紹介、きっかけとなった出来事など、読み手が知りたいことを書く。

【学習の振り返り】

- ・ぼくは、今日の学習で、読み手の資料を見て、紹介文を書き直そうと考えました。なぜなら、附属アートミュージアムに来てくれる人のことをよく考えることが大切だと分かったからです。万葉ソングの魅力を伝えるために、自分たちの思いや注目ポイントなどを整理し直して、紹介文に書き加えていきたいです。

紹介文のどこを直せば読み手に伝わるのかを問う。 【働き掛け2-②】

- 発問「読み手に万葉ソングの魅力を伝えるためには、皆さんの紹介文のどこを直しますか」
- 指示「ワークシートを配ります。皆さんの考えと理由をワークシートに書きましょう」
- ※ワークシートを配付し、記述させる。
- 指示「ワークシートに書いたことをペアで共有しましょう」
- ※3年生と4年生とでペアを組ませ、記述したことを共有させる。
- 指示「どこを直せばよいか発表しましょう」
- ※挙手を求め、子どもに発表させる。理由が不明確な場合は、問い返す。
- ※補助発問「これからどのように学習を進めていきますか」
- ※一人一人の発表後に質問タイムを設け、もう少し詳しく知りたいことはないかを確認する。
- ※子どもの文章をモニターに映し出す。
- ※タブレット端末を活用させ、発表者の文章を見るように指示をする。

本時の学習をまとめ、分かったこと・考えたこと・思ったことを振り返らせる。

- 発問「今日の学習のまとめを書きます。皆さんの発言や黒板に書かれてあることから、どんなまとめにしますか」
- ※子どもに学習のまとめを考えさせ、板書をする。
- 発問「今日の学習で分かったこと、考えたこと、思ったことはどんなことですか」
- 指示「振り返りをワークシートに書いてみましょう」
- 指示「書いたことを発表しましょう」
- ※挙手を求め、子どもに発表させる。理由が不明確な場合は、問い返す。

(3) 評価

再取材や再構成をして、紹介文をよりよく書き表そうとする態度を発揮して、万葉ソングへの思い、注目ポイント、歌詞や旋律の紹介、きっかけとなった出来事など、読み手が知りたいことを取り入れて紹介文を書き直すといった具体的な見通しを記述することができている。(ワークシートへの記述)